

令和6年度柏市幼児教育共同実践研究



—援助の在り方を考える「言葉の伝え合いエピソードシート」—

はじめて活用ガイド



～「言葉の伝え合いエピソードシート」について～



言葉の伝え合いに視点をあて、子どもの育ちや保育者の援助について、日々の保育を振り返る内容を示してみたものです。このシートを活用しながら、柏市で一緒に幼児教育の質の向上を目指していきましょう。

～「言葉の伝え合いエピソードシート」のはじめて活用Q&A～

今回の研究は、何歳児が対象ですか。



園の全ての子どもが対象です。乳児から言葉の取得は始まっています。0歳から5歳、そして小学校まで連続して子どもは発達しており、どの年齢でも伝え合いを楽しむ様子が見られると思います。共同実践研究の報告会では、伝え合いを楽しむ子の姿を語り合うことを通して、乳児・幼児・児童の発達と学びの連続性について考えていきましょう。

園ではどのように取り組めばよいですか。



何気なく行っている活動の中で伝え合いにつながった場面がたくさんあります。まずは、「言葉」の事例に目を向けてみてください。その事例を日誌に書きためてみるとよいでしょう。遊びに限らず、日常生活の中によい事例があるかもしれません。

また、その場면을「言葉の伝え合いエピソードシート」を活用して保育者の援助の視点から振り返りましょう。また、園内の先生と語り合い、「わたしだったらこうする」「つぎはこうしてみよう」と出し合うことで、明日の保育につながると考えます。

内容に迷われましたら、柏市で配付しております「架け橋期カリキュラム」を参考にしてみてください。「エピソードから見る幼児期の姿」(P.10～)には、「言葉」の事例がいくつも紹介されております。また、本研究で令和3年から令和5年発行の「言葉の伝え合いサポートブック」もご覧ください。

報告会に参加する時に、1園1エピソードを報告することになっていますが、どの活動を選べばよいですか。報告会では具体的にどんなことをしますか。



報告会では他園や小学校とエピソードを共有することで、子どもの育ちの連続性や保育者の援助の在り方を一緒に考えていきます。



言葉の事例はたくさん出てくると思います。その中で「子どもが伝え合いを楽しんでいる」「保育者の援助が効果的だった」と感じたエピソードを一つ選んでください。



報告会で語り合いました内容につきましては、園に持って帰り、ぜひ次年度の実践等に反映していきましょう。柏市の幼保こ小で「言葉による伝え合い」を大事にし、伝え合いを楽しむ子を育てていきましょう。

限られた時間でも、
できる範囲でやってみましょう！

